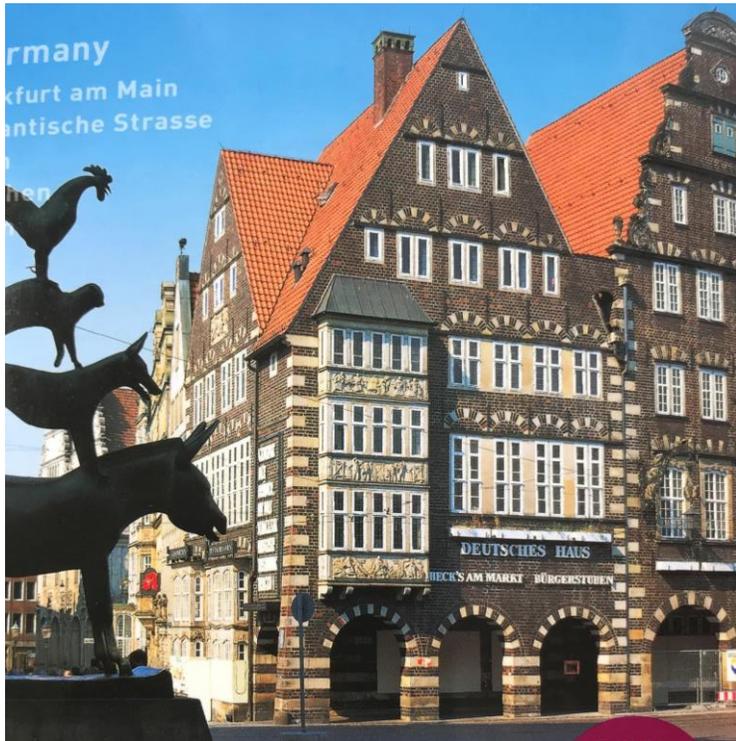


『外国での生活』

～ 外国の文化・暮らしの違いから見えてくる
考え方の違いを知ろう ～



ブレーメンの音楽隊（グリム童話）と街並み

2021年11月22日
於：文京区立第八中学校

国際人をめざす会
阿部 清

(序) ドイツ長期滞在より帰国時の日本の第一印象

問題提起のヒント

- ◆電線・電柱の煩雑さ
- ◆広告・宣伝の無秩序さ
- ◆マンション群のベランダに布団や洗濯もの
- ◆国際空港から都心までの時間的・空間的距離の長さ
- ◆公共施設の未整備（上下水道・道路・緑地・公園）
- ◆住宅の無秩序な乱開発（狭く貧弱・通勤地獄）
- ◆高速道路の混雑、道路標識・住宅表示の悪さ
- ◆踏切の多さ（開かずの踏切）
- ◆騒音の多さ、騒がしい生活環境
- ◆マナーの悪さ、ルールの無さ

「ドイツ社会について」

1.ゲルマン民族の高緯度文化（冬が半分）～気候・風土・地理的条件～

緯度の比較

- ◆ ドイツ：北緯 55～47度
首都ベルリン（52度）
- ◆ 日本列島：45～31度
東京（35度強）



気候と地理的条件の与える影響

「冬の国」(長い冬、突然訪れる春、短い夏、落葉の秋)

ドイツの四季は変化に乏しく、大きな周期で一巡 単調で息が長い
麗しの五月 (ハイネの詩) ゲーテの「イタリア紀行」 (長い休暇→陽光の南欧)
厳冬の短い日照時間、冬の楽しみ (オペラ、クリスマス、復活祭)

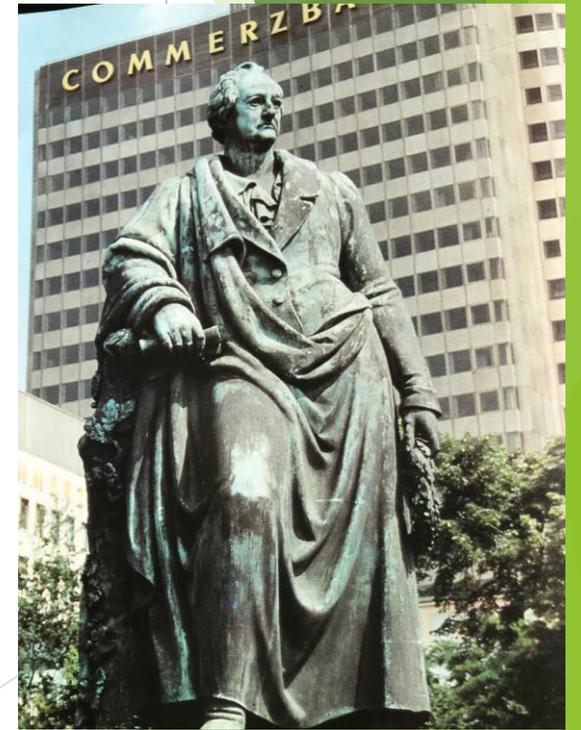
単調な地形

ゆるやかな起伏の高原、黒い森、森の文化圏(森の民)
広野(ハゲ)、狩猟民族 (=ゲルマン民族)

厳しい気候風土 「石の文化」 堅牢な石造りの家、豪華な住宅
と質素な衣類

ドイツの食を育んだ風土

世界有数な畜産国 (名物のソーセージ、ザワークラウト
(狩猟民族の保存食)
ブドウ栽培の北限 (ライン・モーゼル、フランケン等白ワインの名産地)



ゲーテの像

じっくりと物事を考える習慣

- ◆ 1年の大部分を暗く閉ざされた孤独な冬→人々は順序良く物事に対処しなければならない→決して慌てず息の長い生活態度
- ◆ ドイツ人の「気の長さ」= 気が大きくて鷹揚、一方小回りがきかない「融通性のすくない」国民性
- ◆ ドイツ的思考（実証的より思弁的）、哲学（カント、ヘーゲル、マルクス）
- ◆ 絵画的より音楽的（バッハ、ヘンデル、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、ブラームス、ウェーバー、ワーグナー）

2. 連邦制と強い地方自治～政治・経済体制の仕組み～

歴史的背景：中世以来、神聖ローマ帝国の実権なく多くの小国が分裂
北のフロンケン、南のバイエルンを代表に地方に群雄割拠
欧州で中央集権国家としての統一が遅れたドイツ

文化・風土：地域的郷土愛が強く、地域社会・地域文化を重視、
方言の多様性が地域と密接
(「州」も「方言」もゲルマン民族の大移動にその源泉)

日独比較：

| 面積 | 地形 | 人口 | 政治・経済・文化 |
|------------|---------|----------|---------------|
| ドイツ：35万7千㎡ | なだらかな丘陵 | 8,390万人 | 地方分権型（地域性） |
| 日本：37万㎡ | 90%山岳地帯 | 12,610万人 | 中央志向型（東京一極集中） |

3. コミュニティ（共同体意識）～社会体制・生活の基盤～

ドイツの街（旧市街）の共通点

中央広場を囲み、
市庁舎(行政=政治)、教会(宗教)
ホ°ラウス(芸術)の「三位一体」

ドイツ人の「徹底性」=キーワード

徹底的に徹底せよ = 頑固・一途さ

(日本人: 「ほどほどに」「まあそのくらい」中庸を愛する)

→ これが**コミュニティ**、**社会生活面**に影響:

◆ 主婦の窓が 磨き方、

◆ 「ものづくり」 にこだわりを持つ

(貧弱なものは作らない 無骨でも頑丈で長持ちするもの)



教会と市庁舎

共同社会・地域社会：共同体意識が強い(悪く言えば「お節介やき」
「うるさい」、個人に介入し過ぎ)

自分たちの街(家・街並の美観)：窓は北°北°か、出窓に花(ゼラニウム)を飾る、芝刈り、
街並みの高さや色の制限(街並みの美観を保持)

“美しい街並みは地域の財産”

自分たちの街の復興・復活：ドレスデンの街の復興（10万個の瓦礫の破片のモザイク、
10数年掛けて復活した“聖母教会”

→「世界最大のパズル」の難工事

«景色はそこに住む人の財産、自分の世代で勝手に
変えることは許されない»という思想



爆撃後の聖母教会



復興後の聖母教会

幼児教育、家庭の躰：「子どもと犬のしつけはドイツ人にやらせろ」

子どもは共同社会の「共通の財産」→子どもの教育・しつけは
共同社会全体の問題＝「大人の世代の共通責任」
との基本的了解が社会全体にある

ゲルマンの教育：真剣な体当たり教育(子どものお尻をぶつ)

公共の規律・規則や人間関係のしつけは厳格→ 礼儀礼節は社会全体

日本：コミュニティ意識の希薄化、相互扶助や防犯等
→ 「地域力」の弱体化

マスター制度：アウトバーンとマスター制度がドイツの奇跡の復興を支えた

主要学校(中学卒)→職場で「養成工・徒弟」実習生として働き
定時制職業学校に通う→「熟練工」→「親方」(マスター)になる
= 資格証明書の取得

“マスターの社会的ステータスは高い”

背景：伝統的に職人を重んじるドイツの価値観

「質実剛健」、「実用合理」の精神

“ドイツ的労働の価値”：ドイツ製の揺ぎ無い高品質で堅牢な「ものづくり」は
マスター制度に基礎

◆ドイツ車 精密機器 マイセン陶磁器 ゴリンゲン刃物 調理器具
楽器 おもちゃ 眼鏡 皮革製品 ビール ワイン

大学制度:大学は全て州立大学(総合・単科大学、約百数十校)

ギムナジウム (旧制高校) の卒業試験=大学入試資格(入試ないが卒業は難しい)

ゼミナ-制(大学間の移動・原則自由) 州立大学間の格差なし

日本: 東大はじめ旧帝大を頂点としたヒルキ-

教育(Erziehung)とは、er(得)ziehen(引く) 「才能」を引き出す

ドイツの学校: 「学歴」のためでなく、「修行」のためにある

「どこの学校」を出たかでなく「何を勉強」したかが重要

ドイツの階級社会と「肩書き社会」: Diplom, Doktor ,Professor

日本: 別な意味の階級社会→ 明治以降の近代化の過程で「学閥」という副産物

→エリート中央官僚の「官僚支配国家」、格差社会 (格差の固定化)

4.都市機能（都市計画）～社会の制度～

都市計画

ドイツでは伝統的に古い自分たちの街を誇りに保存・維持

→ 地域的郷土愛が強い

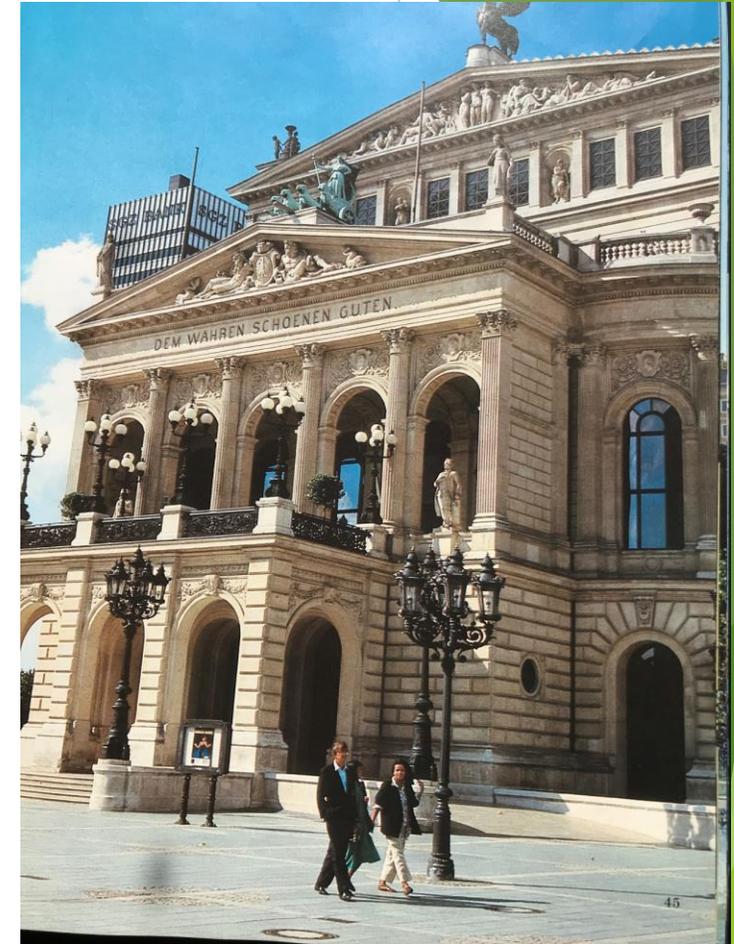
（どの大都市に行っても旧市街があり、中央広場を
中心に市庁舎、教会、オペラハウス）

都市機能として「都市の適正規模」

= 地方分権・地方分散型経済と関連

百万都市：北のハンブルグ、南のバイエルンのみ（ベルリンは別格）

フランクフルト（金融の街）デュッセルドルフ（商業の街）ですら65～70万都市



オペラハウス

都市計画の概念定着：

都市計画の**公共性を優先**し土地所有者の権利を大幅制限
→**個人の権利より街全体としての公共性や一体感を重視**

長期的展望に基づく政策（具体例）

- ◆インフラ整備 = 上下水道
- ◆アウトバーン (特に都市の環状線は日本に比して完備)
- ◆電線の地中化 (戦後の復興の過程で)、電力 220V
- ◆建物の高さ・色の制限 (良好な都市景観を重視)
- ◆緑地・公園の保持、大都市は森が備わる (市民の憩い)



ゴスラーの中央広場と街並み

伝統的に美しいドイツの街並み：

「美しい街並みは地域の財産」という概念・思想

高速道路がわが物顔に街を切断して走るといふ
日本的光景はない

自意識の強い住民が、自分の町の文化や風情を
破壊する「横暴な高速道路」を容認せず
(東京の日本橋、大阪の中之島)



フランクフルトの街並み

日本でも変化の兆し：「景観法」(H17.6施行)による地域再生

「文化財保護法」の改正により新設された「重要文化的景観」の
第1号に「近江八幡の水郷」が指定(H17.11)

「ドイツ人個人の特性(社会・生活面)」

1. 権利と義務(強い自己主張)責任の問題

ドイツ人の自己主張の強さ(個我の強さ)=たえず自己主張してやまぬ強烈な自立型の人間

ドイツ的教育の主眼=批判精神

子どもの時から「自分を主張し他を強烈に批判できる人間になれ、自分の意見を持って、そしてそれを誤ってもいいから論理的に言い張れ」

と徹底的に教え込まれる

「自立的人間」という理想像の当然の帰結

「君は論理的だ」とほめられるのが最上の賞賛

日本の教育の対局：集団的「和」を重んじ、知識の量、吸収の速さ、応用の速さを尊しとする

対話の重要性：ドイツ人は家庭・社会生活でことばを用いて徹底的に話し合い論じ合い語り尽くしてやまない→
ことばによって表現されたものだけを基に判断し行動する(「はじめに言ありき」)

「沈黙は金」ではなく「沈黙は無能」

YesとNoをはっきりさせる ↔ 日本人はNoと云えない文化

「私が」「私は」ととにかく「私の」意見、提案をハッキリ表明→

こうしたドイツ人の剛直な特性→ややもすると議論好きでしつこい印象

ドイツ人の対局にある日本人(キーワード):

惻隱の情、以心伝心、阿吽の呼吸、
暗黙の了解、空気を読む、和をもって貴し、
出る杭は打たれる、思いやり、柔軟性

グローバル化したの世界(国際会議・国際交渉の場)→相手に自己主張して
自分の考えを伝えることが重要→「グローバル・スタンダード」

説明責任の重要性(政治・経済の世界)
「永田町の常識は世間の非常識」

権利の主張と義務 (= 自己責任) は裏腹

2. 自己責任の問題

ドイツ人の順法精神：「法治国家」、「法」が完備よく機能,法律学と神学は古い
ドイツ人はあきれくらい法を尊重し法に従う

「法」と「正義」と「権利」の三身一体

ドイツ人の特性：「規則を守り決められたとおりに行動する」
「決められた規則を守る訓練が行き届いている」

反面：「規則」を破る者に厳しい態度でのぞむ

「法を犯すものを警察に密告する」→「監視社会」

「規律」 ということを重んじること→ドイツの自然環境の影響

その根底には「物事を順調に運ぶには**規律**が必要である」という思想

「**規則にそっている**→うまく行っている→大丈夫です→
承知しました→OK

法律を尊ぶゲルマン精神 = 家庭と社会の礼儀教育を通じて培われた

その結果、人に迷惑を掛けないこと→

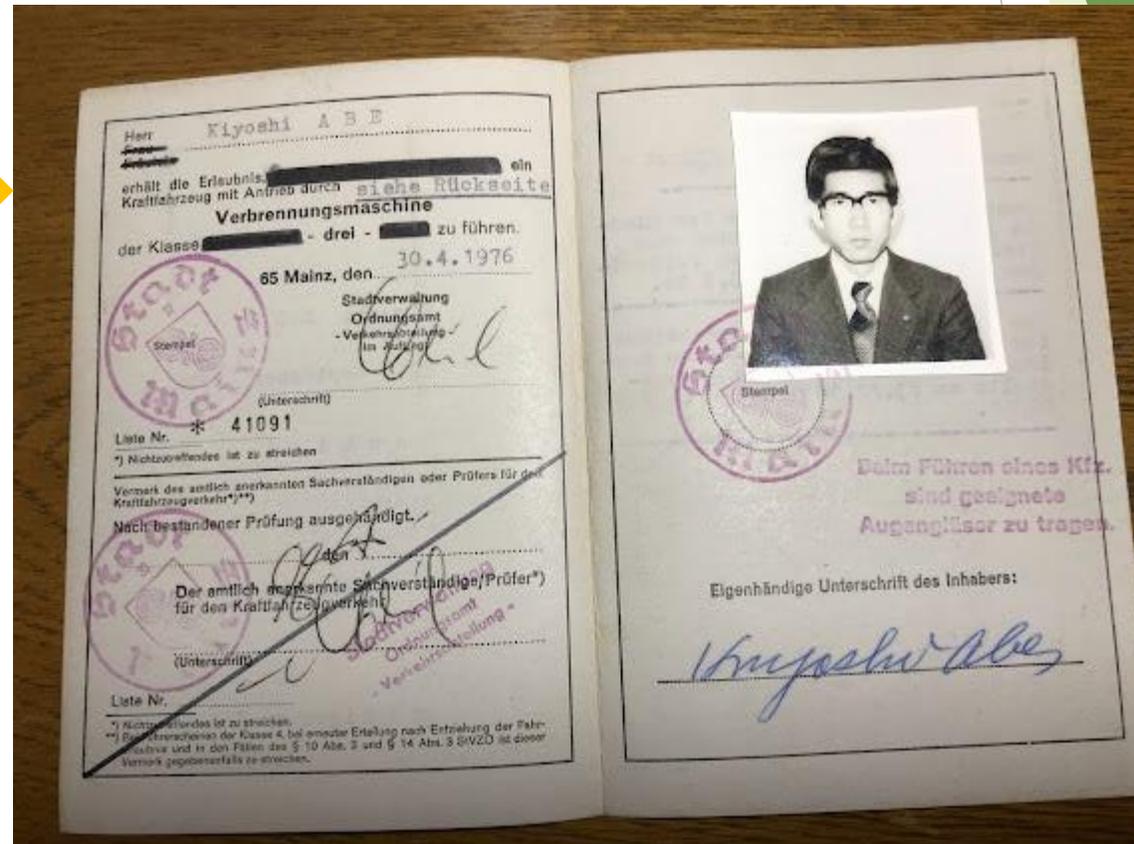
ドイツでは極めて大切な**「倫理規範」**

対局：日本人・日本社会(個人・企業・行政)のモラルの低下、
公德心の貧しさ「約束を守る」「決まりに従う」
という素朴な常識を軽視する

ルールを守る社会=自己責任=不介入・自由放任=自由は孤独

- ◆ アウトバーンの速度制限なし
- ◆ 運転免許の書き換えなし
(1度取得すると永久ライセンス)
- ◆ 車検の問題
- ◆ 交通事故の対応
- ◆ 雪かきの問題

1976年4月30日 取得



3. 価値観の多様性

階級社会および結果的「世襲制」と関係

高等学校と職業学校、大学卒のIリトとマイスター、 Dr Prof

地方自治・地域社会(郷土愛)を重視する社会

地域間の移動が少ない=その町に生まれたらその地域に生涯暮す
単身赴任など考えられない→転勤拒否

アウトバーン・河川・運河等流通網の整備
→地域相互を密接に結びつける
都市・農村・地域間の格差なし



マイン川と船着き場

伝統的「ものづくり」の精神：「技」・「匠」の重視と**マイスター制度**に関連
マイスターになれば収入面だけでなく地域社会の
名声と尊敬を得る

転職の文化圏：所属する「会社」でなく従事する「**職種**」が彼らの誇り

州立大学間の格差なし：「どの学校・大学」を出たかでなく「**何**」を学んだか
「**何**」を習得したかが重視される風土

ゲルマン人の自立的精神→バックグラウンド

日本人：**付和雷同型**の人間が多く、**他人の目**を気にし過ぎ、**空気**を読む
→同調圧力

日本：中央集権と東京一極集中(政治・経済・文化面はじめ全ての中心)と
地方の格差、東京の吸収力・吸引力I初キ-のすごさ、中央官僚主義の
支配、東大(旧帝大)を頂点とするヒIラキ-

日本人の価値観の均一化=個我の確立ない

自分の意見・生き方より他人がどう見るか、他人と比較し他人を意識

- ◆お受験、受験地獄、「塾」・「予備校」の繁盛
(塾は全国4万校、30万人が従事)
- ◆有名幼稚園、名門私立高校、東大、一流企業・中央官庁へ就職
高級外車に乗り都心の豪華マンションに住むことを希望

ドイツ共生の社会：単一の価値観ではなく、多様な人間・多様な価値観の
人間を真に受け入れられる社会

4. 個人主義の成熟度～当然の帰結～

ドイツ人：「個性的自己主張型・自立型」人間＝**個我の確立**

市民社会ではルールを守る、守らなければ責任を伴う(権利と義務と自己責任)

中央行政の介入を排除＝自由にはそれなりの責任が伴う→自由は孤独→
従って自分ひとりで思考→想像力がつき**自立と**
独立の精神を育む

自由独立精神が旺盛：他人と違う点を強調

ドイツ社会の風土：**転職の文化圏**(“会社”より“職種”)

日本では終身雇用・年功序列 (“就職”ではなく“就社”)

日本人の特性 : 「あいまいさが美德」、「郷に行っては郷に従う」

「長い物には巻かれろ」、「寄らば大樹の陰」

「和をもって貴し」、「長幼の序」→“大勢順応型”

日本人はよく「群」れる=仲間意識、ある組織に属すると安心感

“村意識” (村八分)

日本社会の特徴 : 中央政府が介入し過ぎ(=上からの規制に従う事は安易で楽)

◆国民は官に頼りすぎ(伝統的に官に頼る習癖・習性)

「お上意識」が強く「お上崇拜」、「お上依存」(お上に任せておけば)

→長年にわたり自分で決められずお上に頼ってきた

◆何か問題があると国(官)のせいにする→甘えの構造

=自己責任なし

お上側→「由らしむべし知らしむべからず」

中央政府が多くの既得権限・情報を堅持している限り、

→ 自己責任の取れる個人は育たない

→ 自立した地方自治もできない

**個我の確立ができず = 個人主義の成熟度の低さ
= 民主主義の未成熟**

バランス感覚のなさ (= 大きく一方方向に揺れ過ぎる)

ポピュリズムに陥り易い (= 思考停止の危険性)

「チェック・アンド・バランス」のチェック機能がワークしているのか

5. “音”に対する感覚

音と生活：堅牢な家は気温の調整だけでなく「防音」に役立つ

ドイツ人はとくに「音」にたいして神経質

電車の中で子供たちが大きな声で話し掛けると→

「うるさい！静かにしなさい！」と他人でも注意

大人達は周囲の迷惑を考えて小声でひそひそ話す

音に対する「敏感」で「神経質」な事例：休日(安息日)に洗濯、掃除機、
芝刈り機の音(騒音)はダメ

音に対する感じ方→日本人との差異：万ヶ所の日本人学校の事件
(週末、拡声器を使用した運動会騒動)

日本社会では「音」にたいして**鈍感、無神経さ**

- ◆ JR・私鉄の余計なアナウンス、ホームの案内放送・車内放送
- ◆ 街頭での大声のもの売り
- ◆ 街角でラウドスピーカーをつけた宣伝放送

ドイツはクラシック音楽の国：古典派、ロマン派、現代音楽にいたる“**ドイツ楽派**”

音楽教育 = テクニックより **音楽性** が重視

絵画的より音楽的 = ドイツの国民性・ゲルマンの民族性

《完・おわり》

ご清聴をありがとうございました。

是非、一度、ドイツに
お出かけください！



フランクフルトの旧市庁舎